

担当課		主:生涯スポーツ課		生涯スポーツ課	26,425,220	単位:円	
				合計	26,425,220		
No.	交付金事業の名称				総事業費	つち国費 (交付実績額)	うち市費
2	雪国で共に創るスポーツを通じた健康増進プロジェクト				26,425,220	13,212,610	13,212,610
単独事業と広域事業の別		単独	事業実施計画(申請)段階テーマ	地方への人の流れ	事業タイプ	横展開	
事業概要(目的)							
すべての市民が生涯にわたって自分らしくいきいきと活躍できるまちの実現に向け、スポーツ・健康づくりの分野からまちづくりを進める。自転車を活用した健康なまちづくりとともに脱炭素社会の実現、交通分散率の向上といった環境面へ配慮した地域社会の実現を目指した取組、雪国の長年の課題「除雪作業」をスポーツの視点から検証・分析し、民間企業との共同研究によって除雪作業の運動量をデジタルに可視化して、スマートフォンで測定できるアプリケーションプログラムを開発することを契機とした地域イノベーションの創出に向けた取組、市民が日常的に身近に健康づくりと関われる環境整備を進めるため、幅広い世代からの情報収集と分析を行い、市民ニーズに合ったスポーツ、アクティビティー、健康づくり講話などの教室の拡充、イベントの提供を行う取組などを実施。このようなスポーツ・健康づくりの事業を、産官学連携や地域間連携など新たな視点から再検証し、市民が生涯にわたって自分らしくいきいきと活躍できるまちの実現を目指す。							
本事業における重要業績評価指標 (KPI)			目 標 値 上段:前年からの増加分 下段:実数				
			事業開始前 (基準年:R1)	令和3年度増加分 (1年目)	令和4年度増加分 (2年目)	令和5年度増加分 (3年目)	(KPI増加分 の累計)
南魚沼市健康ポイントの目標達成者数			120人	80人	100人	100人	280人
				200人	300人	400人	
自転車関連イベントの参加者数			1,370人	1,212人	200人	200人	1,612人
				2,582人	2,782人	2,982人	
総合型地域スポーツクラブへの市外からの参加者数			468人	20人	20人	20人	60人
				488人	508人	528人	
市民の幅広い世代が多様なスポーツで健やかな暮らしを実現するプロジェクトの延参加者数			10,709人	1,000人	3,000人	5,000人	9,000人
				11,709人	14,709人	19,709人	
本事業における重要業績評価指標 (KPI)			実 績 値 上段:前年からの増減分 下段:実数				
南魚沼市健康ポイントの目標達成者数				39人	86人	△14人	111人
				159人	245人	231人	
自転車関連イベントの参加者数				△500人	1,964人	△388人	1,076人
				870人	2,834人	2,446人	
総合型地域スポーツクラブへの市外からの参加者数				△102人	191人	107人	196人
				366人	557人	664人	
市民の幅広い世代が多様なスポーツで健やかな暮らしを実現するプロジェクトの延参加者数				△4,261人	2,161人	4,529人	2,429人
				6,448人	8,609人	13,138人	
交付金充当事業の内容及び事業実績額 (補助率1/2) (単位:円)							
1 自転車を活用した健康なまちづくりを市民とともに創り出すプロジェクト							
【事業の概要】 市民のサイクルスポーツの振興を目指し、電動アシスト自転車のレンタサイクルサービスとモニターツアーを実施。 ①市民や地元企業向け電動アシスト自転車レンタサイクルサービスを実施:2,204千円 ・市民向け:4/24～11/30、市内4か所の貸出窓口で実施。(利用者52人) ②ガイド付き試乗体験会を実施。(11/5 参加者4名):96千円						2,299,720	
2 雪国の長年の課題「除雪作業」を健康づくりの分野から地域の活力へ転換するプロジェクト							
【事業の概要】 除雪作業をスポーツのひとつとしてポジティブ化したイメージチェンジを図り、冬場の健康づくりのための運動不足解消ツールとして定着を目指す。 ①除雪作業といった雪を活用した健康づくりのプロモーションイベントの開催:2,067千円 ・スノーアクティビティイベント(2/10 会場:欠之上クロスカントリーハウス 参加者数238名) ・長岡技術科学大学との官学連携により、除雪作業における運動量の可視化を取り入れたスマートスコップ体験会(2/10 欠之上クロスカントリーハウス 参加者数22名) ・予定していた雪下ろしイベント「世界雪ほり選手権」は少雪のため中止						2,067,000	
3 市民の健康無関心層への効果的な健康づくり推進プロジェクト							
【事業の概要】 ①健康ポイント事業の参加促進ポスターを125枚作成し、市の施設のほか、食育推進協力店(24店舗)や市内薬局(33店)および市内コンビニエンスストア(20店舗)でPRを実施:159千円 ②健康づくりを促進するため健康ポイントアプリ開発及び運用試験を実施:2,662千円 ③アスリートフードを活用した健康普及事業:737千円 ・ジュニア世代の栄養学講座(2/13 講師:アップルスportsカレッジ教員 伊藤直美氏 会場:ふれあい支援センター 参加者数32名)						3,558,500	
4 市内のフラッグシップ的スポーツ施設を活用した市民のスポーツ普及プロジェクト							
【事業の概要】 ①市内のフラッグシップ的スポーツ施設を活用した市民のスポーツ普及プロジェクト推進事業(5,000千円) ・全早稲田戦 早稲田大学野球部と同大学出身社会人野球選手との野球試合を開催 (8/12 会場:大原運動公園ベーマガSTADIUM 観戦者数:734名 内訳一般315名、高校生39名、中学生以下380名) ・岡崎郁のYAKUDO野球アカデミー プロ野球OB選手を招聘した野球教室・講演会を開催 (5/14 講師:読売ジャイアンツOB 岡崎郁氏 阪神タイガースOB 掛布雅之氏 野球教室:大原運動公園ベーマガSTADIUM、中学生58名 講演会:南魚沼市民会館 参加者数63名)						5,000,000	
5 市民の幅広い世代が多様なスポーツで健やかな暮らしを実現するプロジェクト							
【事業の概要】 ①幅広い世代の市民を対象に、多様なスポーツに参加する機会を創出するため、スポーツ教室やイベントを開催:12,500千円 ・4月～11月 21事業 延べ実施回数579回、延べ参加者数9,644名 ・12月～3月 5事業 延べ実施回数82回、延べ参加者数966名 ・オンラインスポーツクラブ 登録数843名、3年間の動画を南魚沼市スポーツ&アクティビティ情報総合サイト内にて掲載 ②アウトドアスポーツ普及プロジェクト事業AYANA'S RETURN PROJECT:1,000千円 ・マウンテンクリーンウォーク&環境問題に関する講話・ワークショップ(10/21 講師:小野塚彩那氏 会場:石打丸山スキー場、参加者数:親子4組) ・スキー教室(12/26 講師:小野塚彩那氏 会場:石打丸山スキー場、参加者数:22名)						13,500,000	
1/3							

■実施事業及びKPI実績についての評価			
F	事業実績についての評価 ※右欄から選択	①	①計画どおりに実施し、十分な成果が得られた ②おおむね計画どおりに実施したが、期待される成果には達しなかった ③計画どおりに実施できず、ほとんど成果が得られなかった
G	上記評価結果に対する特記事項 ※任意記載 (事業の成果や課題について特筆すべきことがあれば記載)	一部のKPIは目標値に達していないものの、多様なスポーツ教室やイベントを開催するとともにジュニア世代が参加しやすい教室等を増やすことで参加者を増加させることができた。また、雪下ろしイベント「世界雪ほり選手権」は少雪により開催を見送ったが、スノーアクティビティイベントや、長岡技術科学大学との官学連携により、除雪作業における運動量の可視化を取り入れたスマートスコップ体験会など雪を活用したイベントを実施することができ、サイクルスポーツの推進やスポーツを通じた健康増進の機運の醸成につながった。	
H	事業の修正・改善点 (令和5年度の事業実績や成果を踏まえて、PDCAによる事業改善の観点からの修正・改善点)	スポーツや健康増進に関心の薄い市民へのPR手法等は、引き続き検討を行う必要がある。	
I	KPIの目標達成状況 ※右欄から選択	②	①すべてのKPIで達成 ②一部のKPIで未達成 ③すべてのKPIで未達成 ④すべてのKPIで未達成かつ事業開始前より悪化した指標がある
J	目標未達成だった場合は、その理由 ※上記で①以外を選択した場合に記載	自転車関連イベントの参加者数は、園児を対象としたストライダー教室の参加者数が減少したことからKPIが未達成となった。	
■交付金事業の地方創生への効果			
K	事業効果 ※下記から選択	②	KPIに対する実績値(目標に対する達成状況)を踏まえて、地方創生に対する事業効果を4段階で評価する
①地方創生に非常に効果的であった(すべてのKPIが目標値を達成するなど大いに成果が得られた) ②地方創生に相当程度効果があった(一部のKPIが目標値に達しなかったものの、おおむね成果が得られたとみなせる) ③地方創生に効果があった(KPIの達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる) ④地方創生に効果がなかった(KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い)			
L	交付金事業実施の総括 (令和5年度の事業実績や効果を踏まえて、今後の取組にどのようにつなげていくかなどを記載)	多様なスポーツイベントや教室を開催することで、サイクルスポーツの推進やスポーツニーズを掘り起こすことができた。また、雪を活用したスポーツイベントを開催することにより、雪国ならではの新たな視点による健康づくりへの取組とスポーツを楽しむ習慣化への誘導はできた。一方、課題であった市民への働きかけ方法は課題が残っているものの、年間を通じた教室とすることでジュニア世代の参加を増加させることができた。今後は、更に幅広い世代からの参加者を掘り起こすため、これまでの取組を検証しながら、さらに効果的なスポーツ・健康づくりの事業を展開していく。	
M	「K 事業効果」、「L 交付金事業実施の総括」に対する外部有識者からの意見	・自転車を利用して運動できるイベントなどをもっとオールシーズンで実施して欲しい。 ・健康スポーツプログラムに、市内2つの大学の学生、教官が関われるように発展できるといい。 ・移住定住、人の流れをつくるスポーツツーリズムを推進するため、市民にとって当たり前の雪のイベントをブランド化し、そこに市民が参加する形も今後必要。	

【2】地方創生推進交付金事業のまち・ひと・しごと創生総合戦略における位置づけと事業評価シート

【戦略プロジェクトⅡ】移住定住・ひとの流れをつくるプロジェクト

【基本プロジェクトⅡ-2】交流人口・関係人口の創出・拡大

【施策】国内外の交流を推進する

まち・ひと・しごと総合戦略における位置づけ

(その1)

指標No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (基準年)	R6目標値	実績値			
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
Ⅱ-2①-1	「総合型地域スポーツクラブ」への市外からの参加者数	468人	568人	366人	557人	664人	
KPIの目標達成状況 ※右欄から選択		①	①KPIを達成 ②KPIは未達成だが目標値に向かって順調に推移 ③KPIは未達成で目標達成は難しい状況 ④KPIは未達成で数値が悪化している				
目標未達成だった場合は、その理由 ※上記で①以外を選択した場合に記載							
KPI実績と交付金事業の関連性 (交付金事業の実施によりKPIの目標達成にどのような効果や影響があったか、事業実施前後で改善・前進した取組などを記載)		幅広い世代の市民を対象とした多様なスポーツイベントや教室を開催することで、総合型地域スポーツクラブを充実させることができた。					

【戦略プロジェクトⅡ】移住定住・ひとの流れをつくるプロジェクト

【基本プロジェクトⅡ-3】地域資源を活用した質の高い観光交流の推進

【施策】自然環境や地域特性を生かしたスポーツ・ツーリズムを推進する

まち・ひと・しごと総合戦略における位置づけ

(その2)

指標No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (基準年)	R6目標値	実績値			
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	
Ⅱ-3③	自転車関連イベントの参加者数	1,370人	3,400人	870人	2,834人	2,446人	
KPIの目標達成状況 ※右欄から選択		②	①KPIを達成 ②KPIは未達成だが目標値に向かって順調に推移 ③KPIは未達成で目標達成は難しい状況 ④KPIは未達成で数値が悪化している				
目標未達成だった場合は、その理由 ※上記で①以外を選択した場合に記載		園児を対象としたストライダー教室は、園児数の減少とストライダー教室経験者が増加してきていることに伴い、参加者数が減少していると推測されKPIは未達成ではあったが、自転車イベントの参加者数は増加しており、目標値に向かって順調に推移している					
KPI実績と交付金事業の関連性 (交付金事業の実施によりKPIの目標達成にどのような効果や影響があったか、事業実施前後で改善・前進した取組などを記載)		電動アシスト自転車のレンタサイクルサービスとモニターツアーの実施に加えて、雪上での自転車体験会を実施し、自転車というスポーツ資源を地域資源として活用する環境づくりを引き続き進めることができた。					

■【1】及び【2】の評価結果を踏まえた本事業の効果の検証

総合戦略のKPI達成に対する交付金事業の有効性 ※下記から選択	②	地方創生推進交付金を活用して実施した事業(交付金事業)が、総合戦略の推進(KPIの目標達成)に有効であったかについて、【1】【2】の実績や評価結果を踏まえて、本部会議での評価結果
①非常に有効であった(すべてのKPIが目標値を達成するなど大いに成果が得られた) ②相当程度有効であった(一部のKPIが目標値に達しなかったものの、おおむね成果が得られたとみなせる) ③有効であった(KPIの達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる) ④有効ではなかった(KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い)		
外部有識者からの意見 (上記「本部会議での評価結果」についての妥当性)	②	・当初設定した事業開始前の数値に比べて、必ずしも数値が上がっていない。1年目の目標値に比べて、数値がクリアできていないところがある。 ・全般的にアウトドアスポーツが非常に厳しい状況の中では、このKPIは、結構頑張っている。 ・効果があるもの、なかなか難しいもの、今後伸ばしていけるものが見えてきた。次年度以降、皆さんの意見を聞いて検討してほしい。